スオウパーティ通信

2026年
10月号

Unity開発コース作品群がコンテストへ



上級Ｕｎｉｔｙ開発コースから多くの作品をコンテストに応募しています。初級スクラッチコースに比べてリッチな表現が可能で、塾生たちが今まで遊んできた市販ゲームを自ら作るレベルになってきています。

上級Ｕｎｉｔｙコースは10名が在籍しています。４月から始めてまだ半年の塾生が多く、まずは練習のつもりで１作目を作り始めたところ、ＡＩの後押しもあり、高品質なゲームを形にすることができています。

上記画像の通り、２Ｄではスクロールして進むゲーム、頭を使うテーブルゲームや落ちものパズル、３Ｄでは立体空間の中で戦闘や探索をするゲームがあります。実際のゲーム会社と同じ環境であるプログラミング言語や英語のソフトや設定に苦戦しながらも、長く塾に通い培ってきた自走する力で、講師の手をあまり借りずに新しい技術と作品づくりに挑戦しています。

プログラミングも学びの秋 新しい塾生続々

毎年秋は、受験に専念する中学３年生が退塾する一方で、何人かの小学生が入塾してきます。春に続き秋も、習い事を始めたり切り替えることが多いようです。

防府教室では女の子がスタートしました。体験でプログラミングの楽しさと面白さに魅了され、入塾をすぐに決めてくれました。素敵な作品ができるといいですね。



新聞づくり『ハレ新聞』ＪＦＮ３８局で紹介



（スオウ社の活動報告）ＴＯＫＹＯＦＭ・ＪＦＮ系の朝の番組で、ハレ新聞が紹介されました。先日、全国に向け部活動の地域移行の受け皿として新聞クラブの提案をプレスリリースで発表したところ、放送作家の方から問い合わせがあり実現。人数・移動・費用の課題を全て緩和できるハレ新聞を多くの方に知って頂けました。